

AS472897

米子発「Revit」+アドオン「BooT.one」を使用した BIM 建築設計の効率化

[新田 唯史]

[美保テクノス株式会社]

[高取 昭浩]

[高取建築情報化コンサルティング株式会社]

学習の目的

- 地方ゼネコンが Revit 推進により得られた効果について学習します。
- Revit 単体と BooT.one を使った時の効果の違いについて具体的な数字で学習します。
- 小さな組織での Revit 推進についてのヒントをつかむことができます。
- 小さな組織での Revit の教育方法についてのヒントをつかむことができます。

説明

鳥取米子市の小規模ゼネコンである美保テクノスでの BIM 活用事例。Revit およびアドオンの BooT.one を使った建築設計に取り組み、建築生産性の向上・働き方改革 法案への対応を実現しました。外部コンサルティングのサポートを受けつつ、自社独自の BIM 規格を整備し、BooT.one のエクステンション、ファミリ、テンプレート 等を活用することで、Revit の効果を最大限に引き出し、設計業務の 70%効率化に成功しました。また、対応物件数も、過去の同一期間と比較すると 1 物件の増加となり、プロジェクトの加速、残業の削減に帰依しています。

スピーカーについて

新田唯史は一級建築士で 2004 年から美保テクノスで建築設計を担当しています。

美保テクノスは鳥取県米子市にある社員数 200 名の小規模なゼネコンです。

入社と同時に設計部に配属され設計者として Revit を使った建築設計に取り組み BIM の社内普及を推進してきました。

2007 年より設立された Revit User Group Japan の設立メンバーで理事を担当し日本の BIM 創成期で国内の BIM 普及に取り組み AUJ2008、RTC2010、AUJ2012 などには講師として参加し Revit を活用した設計事例を発表しました。

現在は社内において BIM 推進の責任者として全工程での BIM 化と BIM を活用した建築生産性の向上、働き方改革法案への対応を実践し美保テクノス独自の Revit 規格策定に取り組んでいます。

自社独自の BIM 規格と BooT.one

美保テクノスでは Revit を導入してから 10 年が経過した 2014 年に設計部門を支援する BIM オペレーター集団として IPD センターという部門を設立しました。それからの 4 年間を含めた 14 年間、局所的なあるいは個人的な効率向上や受注貢献の達成を実現することができましたが、それは一部の個人的な技術に頼った極めて属個人的なノウハウに頼ったものでした。

建築物を企画、建築し運用、解体するまでの間、部分的な生産性の向上にとどまることなく建築生産活動全体での生産性向上、利益向上を実現するためには一定のルールに従った BIM モデルを作成することが重要です。一定のルールに従って作成された BIM モデルだからこそ、いつでも、だれでも目的に応じた情報を取り出し活用すること可能になり生産性の向上に BIM が効果を発揮することになると考えました。そのために我社では自社独自の BIM 規格の策定の必要性と重要性を理解し、実現への近道として BooT.one の導入とカスタマイズに取り組み成果をあげています。.

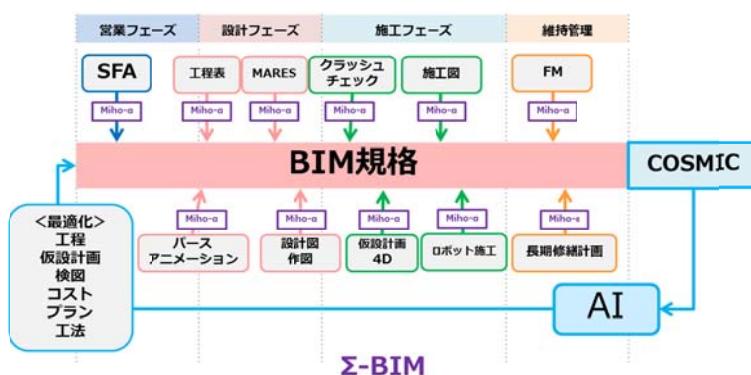
地方の小規模ゼネコンと BIM

美保テクノスは鳥取県米子市にある社員数 200 名、年間売上 100 億円程度の地方小規模ゼネコンです。大規模なゼネコンではなく我々のような、ちいさなゼネコンだからこそ実現できる BIM のかたちと実現するための取組みについてご覧いただきたいと思います。

BIM 規格策定の進め方とポイント

このクラスでは Σ-BIM(シグマ・BIM)と名付けた BIM を軸とした専門系基幹システム実現の目的とその中核となる BIM 規格導入の必要性やその効果だけでなく、BIM 規格を策定し運用するためには必要な組織づくりや考え方、意識改革の必要性やその秘訣について紹介したいと思います。

「Σ-BIM サイクル」について



BIM は我々のような小さなゼネコンだからこそ、その効果を最大限に享受できる技術だと考えています。ぜひ、このクラスを通じて BIM の敷居の高さに臆することなく Revit を活用するための BIM 規格化の重要性と BooT.one によってどのような効果を得られるのかをご覧いただきたいと思います。